

AUGUSTO LOPEZ CLAROS

World Bank's Trend Guru

LONDON
SPEAKER
BUREAU



Augusto López-Claros氏は、国境を越えた女性への投資、事業および法律など、その他の数多くのベンチマーク調査に加えて『Doing Business Report』を担当する世界銀行グループのグローバル指標および分析担当ディレクターです。彼のキャリアの初期には、ジュネーブの世界経済フォーラムでチーフエコノミスト兼グローバル競争力プログラムのディレクターを務めていました。このような立場で、彼は広範囲に渡り、ビジネス環境の改善に関連した政策や制度上の要求について政府や経済界の上級政策立案者の何人かと関わりました。長年にわたり、彼はフォーラムのグローバル競争力レポートの編集者でした。

Topics

- Analysts
- Business
- Economics
- Politics

彼はイギリスのケンブリッジ大学で数学統計学の学位を取得しており、博士号を取得しています。アメリカのデューク大学で経済学の博士号を取得。2003年にフォーラムに参加する前は、ロンドンのリーマンブラザーズインターナショナルのエグゼクティブディレクター兼シニアインターナショナルエコノミストでした。リーマンとの5年間の滞在中、彼は幅広い経済的および経済的なトピックについて幅広く書いています。この研究の一環として、そしてリーマンの顧客と会うために、彼はヨーロッパ、南北アメリカ、中東およびアジアを広範囲に旅しました。彼は過去10年間に150以上のテレビインタビューをすべての主要ネットワークについて行ってきた、経済的および財政的問題に関する頻繁な解説者です。

ファンドでの勤務期間中、彼の任務はスペインのカントリーエコノミストであることを含みました。基金の主要な政策決定部門で働いていました。そこで彼は東ヨーロッパで働き始め、基金で早い段階で優れたガバナンスの仕事をしました。1992年から1995年までの間、彼はロシア連邦のIMF居住者代表として、ロシア連邦に対するIMFの数十億ドル規模の援助プログラムに関連したプログラム実施問題を担当していました。ロシアでの滞在中、モスクワでの1年間の安息日が続きました。彼は以前は調査を行い（その後IMFが発表しました）、移行についてより広い視野を得るためにロシア中を広範囲に旅行しました。IMFに勤務する以前は、サンティアゴのチリ大学で経済学教授を務めていました。教育の任務に加えて、保健省が資金を提供する研究チームを率いて、アルコール乱用の経済的側面を調査しました。チリ。

ロペス・クラロス博士は、ヨーロッパの経済統合、移行経済の改革問題、ヨーロッパの通貨システム、競争力の決定要因、そして広範囲の金融およびマクロ経済を含む、彼の分野の幅広いトピックを書いて講義しました。新興市場に影響を与えている問題。彼はここ数年で講義を受けた、非常に人気のある国際的な講演者です。モスクワのアメリカ商工会議所。オックスフォードビジネススクール。ケンブリッジ大学のダーウィンとコーパスクリスティカレッジ。ニューヨーク証券取引所。ワシントンDCのアспен研究所。オーストラリアのリーダーシップリトリートクアラランプルの国際リーダーシップフォーラム。フランクフルトのヨーロッパビジネススクール。ニューヨークにおける女性の地位に関する2008年国連委員会。エコノミストの新興市場サミット米国、スペイン、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン、チリ、コスタリカなど、オックスフォード大学のジェームズ・マーティン21世紀の学校、およびマイクロソフトの基調講演。

2007年に彼は国際通貨システムIMFおよびG-20の共編集者だった。また、人道

的対応指数：ベストプラクティスへのコミットメントの測定、どちらもPalgraveによって出版されました。 2009年11月にPalgraveによって出版された「開発のためのイノベーション報告書2009-2010：国家の繁栄のためのイノベーションの強化」および「開発のためのイノベーション報告書2010-2011：生産性と経済成長の原動力としてのイノベーション」の編集長2009年に彼はフランクフルトのヨーロッパビジネススクールで名誉教授に任命されました。

info@londonspeakerbureau.my +603 2301 0988